

June 14, 2026

親切・御霊の実

エペソ 4:29-32

4:29 悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。むしろ、必要なときに、人の成長に役立つことばを語り、聞く人に恵みを与えなさい。

4:30 神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。

4:31 無慈悲、憤り、怒り、怒号、ののしりなどを、一切の悪意とともに、すべて捨て去りなさい。

4:32 互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。

一、親切とは

「親切」とは何でしょう。もとの言葉では *χρηστότης*（クレーストテース）といって、新約に 10 回出てきます。日本語では「親」と「切」の二つの漢字で表しますが、「親」は「親身になる」といった言葉があるように、「親切」は、親が子どもに示すような愛情にもとづいた行動という意味になります。また、「親切」の「切」は「切る」という意味ではなく、「切に願う」などというときに使うように、「懸命に」、「熱心に」という意味で使われています。もし、「切る」という意味があるなら、それは、自分の身を削って人に尽くすことを言っているのかもしれませんが。

イエスも、親が子に示すような態度で他の人に接するよう言われました。マタイ 7:9-11 にこうあります。「あなたがたのうちのだれが、自分の子がパンを求めているのに石を与えるで

しょうか。魚を求めているのに、蛇を与えるでしょうか。このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子どもたちには良いものを与えることを知っているのです。それならなおのこと、天におられるあなたがたの父は、ご自分に求める者たちに、良いものを与えてくださらないことがあるでしょうか。」ここで「あなたがたは悪い者であっても」というのは、完全な「善」である神の前では、私たちは罪ある者であることを言っています。天の父の愛に比べれば、私たちの愛は小さく、ほんとうは愛さなければならない自分の子どもさえ、愛せなくなることがあるのです。イエスは完全な天の父が、そんな不完全な私たちをもご自分の子どもとして、それこそ、親身に、切なる愛で愛してくださっていることを教えておられます。

そして、続けてこう言われました。「ですから、人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい。これが律法と預言者です。」（マタイ 7:12）私は親や目上の人たちから「何をしてもいいが人に迷惑をかけるようなことはしてはいけない」と教えられて育ちました。それが私にとっての「律法」であり、「預言者」でした。『論語』には「子の日（たま）わく、……己れの欲せざる所は人に施すこと勿（なか）れ」とあります。イエスの時代のユダヤの法典『タルムード』にも、「自分が嫌なことを、隣人にしてはならない。これが律法のすべてであり、他のものはその解釈である」と書かれています。けれどもイエスはそれと逆のこと、「人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい」と言われました。そして、「これが律法と預言者です」と言われ、ここに神のみこころがあると教えられました。神のみこころは、「人の嫌がることをしない」という消極的な生き方

にではなく、「人がしてもらいたいと思うことをしてあげる」という積極的な生き方にあると、イエスは教えておられるのです。考えてみてください。「人に迷惑にならないように」、「人の嫌がることをしない」と縮こまって人生を送って人生にどんな意味があるのでしょうか。毎日の生活にどんな喜びがあるのでしょうか。しかし「人がしてもらいたいと思うことをしてあげる」、つまり人に親切を分け与える生き方はほんとうに喜ばしいものであり、意義あることなのです。互いに愛し合う、親切を尽くし合う、このキリストの律法に従い、この教えに聞く人はじつに幸いです。

二、神の親切

よく、とても親切な人のことを、「あの人は親切のかたまりだね」と言うことがあります。ときたまではなく、何事でも、また誰に対しても親切なのです。そして、そうした人に共通しているのは、その誰もが神がその人にしてくださった親切をいつも覚えて感謝しているということでした。そういった人も嫌な人に出会ったり、いろんな人に困らされたりしただろうと思うのですが、そんな不平や不満はめったに口にせず、自分がよくしてもらったことを、いつもうれしそうに話していました。

人は誰かから愛されてはじめて他の人を愛することができ、他の人から親切にしてもらってはじめて、今度は自分も他の人に親切にすることができるようになります。私たちが親切な人になるためには、それこそ「親切のかたまり」である神の愛と親切が必要なのです。

聖書は神がどんなに親切なお方であるかを「恵みとまこと」という言葉を使って語っています。「主の道はみな恵みとまこ

とです。」（詩篇 25:10）「あなたの恵みは大きく 天にまで及び／あなたのまことは雲にまで及ぶからです。」（詩篇 57:10）「しかし主よ／あなたはあわれみ深く 情け深い神。／怒るのに遅く／恵みとまことに富んでおられます。」（詩篇 86:15）「恵み」とは神のいつくしみのことで、親が子をあわれむような愛です。「まこと」とは神の真実のことで、決して変わらない切実な愛のことです。「恵みとまこと」は、一言でいえば「親切」です。

この神の「恵みとまこと」は人となって世に來られました。聖書はこう言っています。「私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けた。律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。」（ヨハネ 1:16-18）イエス・キリストは「親切のかたまり」なのです。

私たちは、このイエスを通して毎日、神の親切を受けています。それが分かるとき、私たちもまた人に親切になれます。御霊の実としての親切を実らせることができます。イエスが「人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい」と言われたとき、最初に「ですから」という言葉をつけて「ですから、人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい」と言われました。この「ですから」は、ちいさい言葉ですが、とても大切です。この前には、「天におられるあなたがたの父は、ご自分に求める者たちに、良いものを与えてくださらないことがあるでしょうか」（マタイ 7:11）とあります。天の父が私たちに最善、最高

のものを与えてくださる。神が私たちの父となって大きな「親切」を与えておられるのだから、私たちも、小さな親切であってもそれを分け与えなさいと教えられているのです。

三、私たちの親切

神の大きな親切に比べれば、私たちの親切は、ほんのちっぽけなものでしょう。しかし、それは人の目には小さくても、神はそれをごらんになっておおいに喜こんでくださいます。

では、私たちはどのようにして、親切を実行できるのでしょうか。まず、親切は「心」から始まると思います。私たちは困っている人、助けを必要としている人のすべてに親切にし、手助けをすることはできません。けれども、そうした人を心に覚えて祈ることができます。ニュースを見聞きするとき、戦争の最中にある国々の不安な人々の姿を見ます。私たちはそうした人々のために祈ることができます。ポリスカーやファイヤートラックなどを見るたびに、いつも危険と隣り合わせで働いている人々のために祈りましょう。アンビュランスを見るとき、運ばれていく人の命が救われるように、病気や怪我をした人が守られ、癒やされるよう祈りましょう。「祈ってください」と言われたことは忠実に祈りましょう。誰かのために祈る祈りを神は、喜んで聞き、それに答えてくださいます。祈りは、神を信じる者は誰でもできる親切です。

次は、言葉による親切です。きょうの箇所、エペソ 4:29-32 には「互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい」と、「親切」が教えられていますが、そこには「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。むしろ、必要なときに、人の成長に役立つことばを語り、聞く人に恵みを与えなさい」とあ

り、言葉による親切が教えられています。人の成長に役立つ言葉、聞く人に恵みを与える言葉とは、言い換えれば「親切な言葉」です。聖書は「親切な言葉」について、「心の不安は人を落ち込ませ、／親切なことばは人を喜ばせる」（箴言 12:25）、「親切なことばは蜂蜜。／たましいに甘く、骨を健やかにする」（箴言 16:24）と言っています。コロサイ 4:6 には「あなたがたのことばが、いつも親切で、塩味の効いたものであるようにしなさい。そうすれば、一人ひとりにどのように答えたらいかがが分かります」と教えられています。

よくいわれることですが、私たちが何かを言うときには、三つのことを考えるといいのです。第一に、「それは本当か」ということです。本当でないこと、自分でもよく確かめていないことは、おおよけに話すべきではありません。第二は、「それは必要か」ということです。本当のことであっても、言わなくてよいことがたくさんあります。今は言わないでいるほうがよい場合もあるでしょう。そして、第三に、「それは親切か」ということを考えてみましょう。私たちはときとして自分の言いたいことを言うだけといってうっぷんを晴らすようなことをしてしまいますが、そうした言葉は決して聞く人の恵みになりません。相手に通じないのです。しかし、相手の立場に立ち、思いやりをもって語る親切な言葉は必ず通じます。聞く人の心を癒やし、励ますのです。

神は、私たちが祈りや言葉で示した親切、また、たとえそれがどんなに小さなことであっても、自分にできる限りのことをしたことを覚えていてくださいます。使徒 9:36-42 にドルカスのことが書かれています。ドルカスが病気で亡くなったとき、ペテロが呼ばれました。ドルカスを慕っていた人たちは、ドル

カスが自分たちのために作ってくれた着物を見せて、彼女を偲びました。大人の服も、子どもの服も、赤ちゃんのためのものもあったかもしれません。「これも、あれも、ドルカスが縫ってくれたのですよ」といって、ペテロに見せたことでしょう。神は、ドルカスがした人々への親切を覚えておられ、ペテロの祈りによって、彼女を生き返らせてくださいました。神は小さな親切が必ず報われることを目に見える形で示してくださったのです。

ヘブル 6:10 に「神は不公平な方ではありませんから、あなたがたの働きや愛を忘れたりなさいません。あなたがたは、これまで聖徒たちに仕え、今も仕えることによって、神の御名のために愛を示しました」とあります。親切は与える人の心も、受ける人の心も温めます。きょうの箇所の「互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい」とある御言葉、これに従って生きる人生は最高に幸いな人生です。

（祈り）

父なる神さま、誰もが「親切」にされることを望み、「親切」な人でありたいと願っています。しかし、それを満たしてくださいるのは、愛そのものであるあなた以外にありません。人の力によってではなく、イエス・キリストを通して与えられる恵みとまことによって、御霊の実としての親切を私たちに与えてください。イエス・キリストのお名前です。